

4. 社会貢献活動

三ツ星ベルトグループ従業員は、ボランティア団体「三ツ星ベルトふれあい協議会」を結成し、地域の皆様とのふれあいを大切にしながら、会社と共に社会貢献してまいります。

ふれあいイベントの開催

— 地域とともに —

地域に根ざした企業として、協議会では「住民と企業の共生によるまちづくり」を目指し、三ツ星ベルトグループ従業員のボランティアスタッフによる“ふれあいイベント”を地域の子どもたちを招いて開催し、住民との交流を深めています。イベントは従業員の手作りで、活動資金は従業員からの寄付でまかなわれています。



“学校ビオトープ”の支援

— 自然と親しむ環境づくり —

神戸市の小学校では池を造り、植物を育て、生物と親しむ、自然と共生できる環境を校内につくる活動“学校ビオトープ”が進められています。三ツ星ベルトはこの活動に土木用遮水ゴムシートの無償提供や従業員のボランティアによる施工協力を行い、子どもたちの環境教育を支援しています。



世界の子どもたちに愛の手を

— 子どもたちの未来を応援 —

世界中では依然として戦争、自然災害、貧困などにより、年間560万人もの子どもたちが5歳未満でその尊い命を失っています。三ツ星ベルトは「人を想い、地球を想う」という基本理念のもと、これら子どもたちのお役に立てればと、従業員一人ひとりが寄せられた寄付金を主体に、公益財団法人日本ユニセフ協会への寄付金贈呈を毎年継続しています。また、子どもたちの未来を応援するこの活動は、国内各事業場にとどまることなく、海外拠点にも展開しています。



防災への取り組み

— 災害に負けない —

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災では、三ツ星ベルト従業員で構成する自衛消防隊約60人がいち早く火災現場に出動、地域住民と協力して延焼をくい止めました。また、地域の被災者約400人の避難所として、約4ヵ月間に亘って会社所有の体育館を開放するなど、地域とのつながりを深めてきました。この助け合いの精神が、地域との協力による防災に、今もなお息づいています。



ふれあいイベントの開催

【神戸本社・事業所(神戸市長田区)】

わたしたち、みんなピッカピカの子どもたち(4月)

真野地区の小学校に入学した新1年生を招待して、入学をお祝いする会を開催しています。地元の警察署や消防署の協力による交通安全指導や、子どもたちの歌の発表、屋外では白バイやミニ消防車に乗って記念撮影など、子どもたちの健やかな成長を祈っています。



たなばたまつり(7月)

地域に隣接する神戸市営地下鉄海岸線が2001年の7月7日に開通したことを祝って始まったたなばたまつり。綾部事業所がある京都府綾部市から笹の寄贈を受け、周辺道路は願い事が書かれた笹飾りで華やかに彩られます。特設ステージでは、子どもたちによる歌や踊りが披露され、会場内には地域住民や三ツ星ベルト従業員が思い思いに企画した数多くの屋台が軒を連ねます。四国工場がある香川県さぬき市からはさぬきうどんが、京都府綾部市からはあゆの山賊焼きが毎年来場者に振舞われ、今では神戸・長田の夏の風物詩となっています。



ふれあいクリスマス会(12月)

地域住民を招待してクリスマス会を開催しています。子どもたちの歌や踊りが披露され、ボランティア参加の従業員が扮したサンタやトナカイが会を盛り上げ、子どもたちにプレゼントを手渡します。フィナーレは参加者全員でクリスマスソングを大合唱します。



【東京本社(東京都中央区)】 ミュージックサロン(年2回不定期)

震災復興にあたって多くの方からサポートをいただいたお返しをしたいと、東京で入場無料のコンサートを開催しています。観客の音楽ファンのみならず、出演する若手の音楽家の皆さんには、一流のコンサートホールで演奏する機会として喜ばれています。



【四国工場(香川県さぬき市)】 地引網とさぬき手打ちうどん 体験会(5月)

四国工場に隣接する海岸での地引網と、さぬき手打ちうどん体験会を開催しています。神戸本社や綾部事業所からもバスを連ねて大勢参加し、普段できない貴重な体験が喜ばれています。



【綾部事業所(京都府綾部市)】

あゆのやな漁 見学会(9月)

綾部市を流れる由良川で、期間を限って行われる伝統漁法“あゆのやな漁”を見学する会を開催しています。神戸本社や四国工場からもバスを連ねて参加し、川に仕掛けられた“やな”に打ち上げられて飛び跳ねるあゆを手づかみで捕まえようとする子どもたちの歓声が絶えません。



【“学校ビオトープ”の支援】

神戸市の小学校では池を造り、植物を育て、生物と親しむ、自然と共生できる環境を校内につくる活動“学校ビオトープ”が進められています。三ツ星ベルトはこの活動に加硫ゴム製遮水シートの無償提供や、従業員のボランティアによる施工協力をを行い、現在までに神戸市内の小学校に100を超えるビオトープ池を完成させています。三ツ星ベルトは自社の製品と技術で子どもたちの環境教育を支援しています。



子どもたちの未来を応援する活動

「人を想い、地球を想う」という基本理念のもと、子どもたちへの支援活動を行っています。

阪神・淡路大震災で三ツ星ベルトの本社がある神戸市長田区は壊滅的な被害に見舞われました。歳月が流れるとともに災害に対する当時の記憶は薄れつつあります。しかし、世界中では依然として貧困などによって、年間560万人もの子どもたちが5歳未満でその尊い命を失っています。

三ツ星ベルトグループは「人を想い、地球を想う」という基本理念のもと、こうした子どもたちの役に立ちたいと、震災10年目の節目にあたる2005年から「世界の子どもたちに愛の手を」と題して、グループ従業員一人ひとりから寄せられた寄付金を主体に、公益財団法人日本ユニセフ協会に対する寄付金贈呈を毎年継続して実施しています。

※ユニセフ (UNICEF・・・国際児童基金)

We Support



【日本ユニセフ協会への寄付金贈呈】



【関係自治体(兵庫県・神戸市・綾部市・さぬき市)の福祉施設等への車両寄贈】



ジャカルタ近郊の幼稚園・小学校に文房具などを寄付

三ツ星ベルトグループは「人を想い、地球を想う」という基本理念のもと、2008年よりインドネシアの首都ジャカルタのマリンダ地区にある幼稚園・小学校の支援活動を行っています。

2008年には新校舎、2013年には制服・ハンカチ・鞆・文房具を寄贈しました。



防災への取り組み(防災訓練)

地域との協力による防災

三ツ星ベルトでは、事業場ごとに毎月一斉防災訓練を行うなど、従業員の災害に対する意識向上を図っています。

阪神・淡路大震災が発生した1月17日を「三ツ星ベルト防災の日」とし、当日あるいはその前後に、消防署の協力を得てスケールアップした総合防災訓練を毎年行っています。

訓練は震度6強の地震が発生したことを想定し、近隣の方々にも参加していただき、避難訓練、負傷者救助訓練、炊き出し訓練を定例訓練として行っています。また、パケツリレー、土嚢積みによる浸水防止訓練、応急担架による負傷者搬送訓練なども行っています。



神戸事業所中央第1棟（広告塔のある建物）は、大地震の際の大規模な津波の発生に備え、一時待避所として地域住民等を受入れるため、神戸市と「津波緊急待避所としての利用に関する協定」を結んでおります。



阪神・淡路大震災発生時の対応

1995年に発生した阪神・淡路大震災当日は、工場夜勤者及び保安担当による自衛消防隊が、狭い道路でも有効な手押し（可搬式）動力ポンプ3台からホースを伸ばし放水し、消火器50本と住民100人余りのパケツリレーによって延焼を食い止めました

また、当時の体育館は、その日のうちに避難所として開放し、近隣の被災者約400人が約4か月間避難するなど、地域社会との連携を深めてまいりました。

大災害発生における住民、自治体との日常的なコミュニティー活動の重要性をあらわしています。